



渡名喜観光島づくり 地域円卓会議

いよいよ始まる渡名喜村の観光島づくり計画。
人口減少で空き家が増える最中（さなか）、
渡名喜村の特色を活かした持続可能な島づくりをみんなで考える。

実施報告書

日 時： 2024年11月7日（木）17:30-20:30（受付開始17:00-）
場 所： 渡名喜村多目的活動施設（沖縄県島尻郡渡名喜村1860）
主 催： 渡名喜村
計画策定業務受託者：株式会社ディー・プランニング沖縄
企画運営： NPO 法人まちなか研究所わくわく
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】 渡名喜観光島づくり地域円卓会議



- 日 時：2024年11月7日（木）17:30-20:30
- 主 催：渡名喜村
- 場 所：渡名喜村多目的活動施設
- 計画策定業務受託者：株式会社ディー・プランニング沖縄
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 企画運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく
- 参加者数：22名（行政・教育機関・観光業）
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄

論点提供

日向寺 一彰 氏（渡名喜村役場 経済課／地域おこし協力隊）

いよいよ始まる渡名喜村の観光島づくり計画。人口減少で空き家が増える最中（さなか）、渡名喜村の特色を活かした持続可能な島づくりをみんなで考える。

渡名喜村では、第2次渡名喜村人口ビジョン及び総合戦略を策定し、今後の島づくりのコンセプト「住みよいむら」「活気あるひと」「魅力あるしごと」の実現に向かって様々な施策を打っています。その実現のためには、人口を維持しつつ、渡名喜村の宝である伝統的建造物を活かしながら、新たな産業として観光（交流）事業を充実させていくことが求められています。しかし、人口減少に歯止めがかからない現状で、県内他市町村と同じような観光事業・観光施策を進めることが、はたして持続可能な事業になりうるのかという不安点があります。今回の円卓会議では、他の地区にない渡名喜村の魅力である伝建地区を活かした観光島づくりの方向性をみんなで考える場にしたいと考えています。

※本円卓会議は、「渡名喜村観光島づくり計画」策定の一環として開催いたします。

センターメンバー



日向寺 一彰
渡名喜村役場
経済課
地域おこし協力隊



上原 雅志
渡名喜まちづくり
推進協議会
会長



清水 久乃
渡名喜村観光協会
所属
地域おこし協力隊



高良 朝彦
渡名喜幼稚園・
小・中学校
教頭



下地 達也
渡名喜郵便局
局長



新垣 昌秀
渡名喜村役場
技術顧問

渡名喜観光島づくり 地域円卓会議

地域・困りごとと社会課題で共有共感私

2024.11.7(木) ①

17:30~20:10

◎渡名喜村多目的活動施設

いよいよ始まる
渡名喜村の観光島づくり計画。
人口減少で空き家が増える
最中(まなか)、渡名喜村の特色を
活かした持続可能な島づくりを
みんなで考える。

757回

(司会)
平良斗星

(論点提供者)
日向寺一彰
渡名喜村 経済課・地域おこし協力隊

新垣昌秀
村町議 経済担当

上原雅志
渡名喜村(旧)建設課長

下地達也
渡名喜村(旧)農長

清水久乃
渡名喜村(旧)地域おこし協力隊

高良朝彦
渡名喜村(旧)園児・小中学校 教員

主催 渡名喜村
計画策定業務受託者 株式会社ディー・プランニング沖縄

企画運営 MPO法人まなか研究所わくわく
協力 公益財団法人みずふろいど沖縄

「観光島づくり計画」をつくっている

皆々の声をきかせて下さい。

論点提供

日向寺一彰 さん
渡名喜村 経済課・地域おこし協力隊

わ五次総合計画

基本目標3 創意工夫と活気に満ちた
自立する島(農・漁・観光・地場産業)

「観光資源やメニューの充実による
交流人口の拡大を図る」

施策12 自然・文化・歴史と基調とした
観光を盛んにします(観光の振興)

現状

- 海洋レクリエーションの場としての期待
- 島全体が「渡名喜県立自然公園」に指定
- 国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
- 2018年4月「渡名喜村観光協会」設立
- 2020年「渡名喜村観光案内所」整備

課題

- 宿泊施設の整備
- 人材育成
- 観光関連団体と農漁業との連携強化
- 県内の他地域とは異なる離島観光
- 久米島と連携したプロモーション

人口 346人(2020年) ⇒ 290人(2024.10)

20年間で150人以上減少
減少に歯止めがかからない

宿泊 20組に九ないかな...

8軒・22室・53人(42客)

観光客 467人(2022年) ← 6,061人(2012年)

なにげない生活の中で感じる

生活にこけこんでいる 重伝建

豊かさ

魅力の発信から、住んでいるくらし方

一方で

- 空家の増加
- フェリー → 観光客に不向き、欠航も
- 食事の提供 → 商店でキャンプ食食べている

島の住民がどんな島にしていきたいか、何を大切に、どんなルールが必要か

- キャパ(収容人数)
- 受け入れの人材
- どうあったか話せる場
- 体験プログラム

人とのつながり
風習と大事に
島の人との交流の場作り

上原雅志 さん

渡島島まちづくり推進協議会 会長

③

計画づくりの前に、現状ハ3つ大■事
歴史を知る → 実行性ある計画に!

- 大事にしたこと

渡島喜のこころぬ、カツオ漁で人があった、赤互へ山のおく → 住みつき家族をやしな、たかいまくする、こんきづよさ、しんしん心

伝建はそのあかし!

- 伝建とまちづくり

- 25年たっが、具体的で取り組みにつながらない
- 可能性たくさんある 整備プログラム作り
- 空き家ふえてきている → うちできている 伝建を生かす

人にかす、売ることへのちゆうちよ大事なことであるが、どうしていくか、**活用** リンパ文化発信 宿泊 食提供 仕事おれ

清水久乃 さん

渡島島材観光協会 所長、地域おこし協力隊

観光客 価値

何もなし、ひとりしずかに、のんびりできる

ひとり旅、年齢層高め

強み・差別化できるポイント

宿がとれない、とくに夏場、業者さんでうまってしまう

車中泊、できなくはないが...

キャパ(収容)

こないから 食堂なりたない、3クネビテは他の島で、食堂ないから人こない

自分の時間を楽しめる人に(ひとりの)きてほしい、ほらいても楽しむこと

高良朝彦 さん

渡島島の歴史、小・中学校 教頭

小・中 137年目

水上運動会 106回目(今年)

16名(幼3,小10,中3) ← 21名(去年)

子どもふやすてりくみ必要!

いいところ

星海 ヤシガニ 行事おあがる

しずか っり 何もなし

課題

フェリー-欠航 学童なし、子育て環境 住環境

職員宿舎古

何を守り、何を近代化するか、何もなし、働く場がない

15の旅立ち → もどってこれる環境

■今後のアプローチの方向性（提案）

観光島づくりの議論のあり方

子どもやお年寄り等、普段観光には直接的には関わらないような住民含め多くの参画で議論を続け、みんなが納得できるような計画を作ろう。そのためには先人たちの生き様や歴史、自然環境等、渡名喜の特徴を学ぶことも大切。

伝建地区を活かした活動の周知とルール作り

伝建地区を守りながら観光受け入れをすすめていくという渡名喜のコンセプトの理解者を、島の内外に少しずつ増やしていくことが大切。「伝統建築の残る島で、のんびりと何もしないこと」等の価値を伝えていこう。さらに、将来の民間投資の受け入れも見据えた法整備・運用ルール作りを合わせて行いたい。

島の環境、住民の負荷を考慮した計画

観光地受け入れ容量・子育て世帯のUターンや移住受け入れ体制の整備・フェリーの欠航対策・食の担保等、段階的に増える負荷を計算しながら、細やかな計画と評価体制を、特に住民への過重負担には気を使いながら、持続可能な体制を作ろう。

■参加者によるサブセッション

いよいよ始まる渡名喜村の観光島づくり計画。人口減少で空き家が増える最中（さなか）、渡名喜村の特色を活かした持続可能な島づくりをみんなで考える。

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

- ・ 共通している
- ・ 観光の目的（手段）
- ・ 雇用、産業
- ・ やりやすい
- ・ 交流人口を増やす
- ・ 伝建を活かす
- ・ リフォームして活用する
- ・ 欠点
- ・ 経営的感かくがないとダメ
- ・ 一人一人の意識が大切
- ・ 働き者
- ・ きれいな町、元気がない所に観光客は来たい
- ・ 皆で協力して取り組む
- ・ ボランティアでやっていることを
- ・ 生業として出来ると思う
- ・ 役場の支援は必要
- ・ 外部の資本もいれないといけない
- ・ 文化の高い村づくりをする⇒伝建
- ・ 付加価値の高い観光にする
- ・ ターゲット層を考えること
- ・ 他の島と一緒にでは意味がない
- ・ 出来ることからやって行く
- ・ 村が補助金を出して取り組む仕組みづくりをする
- ・ ハード事業は島にお金が落ちない→島で発注できたらベスト
- ・ お金を作る方策を考えるべき
- ・ 自治体をなくしてはいけない
- ・ 漁業、農業、観光を活かす
- ・ 伝建
- ・ しっくい塗りも島の人でやればお金がおちる
- ・ 島にお金をおとす島づくりを考える

- ・ 資金を持っている人の受け入れも考える
- ・ 受け入れも構築する
- ・ 島興しを考える

②

- 人口減少
 - あと 5 年の人口を推計すると 40 人は少なくなる
 - 観光だけではむずかしい
 - ・ 1 次産業の見直し
 - ・ 漁業は金かかる
 - ・ 農業、スイカ、落花生、キュウリ、イカ
 - 記憶に残る
 - 食 味がよい
 - 外部の力を得て団畑の復活（ボランティア）
 - 米ファン
 - 子ども
 - フェリーから一番はじめにみえる山を活用
 - 桜畑を復活 F 花
 - 山にあがれる
 - 観光
 - これから島にお金をかけれない
 - 人手不足 I・U の支援
 - 行政・住民が一体となって島に〇〇
 - 写真展、人が宝
 - 希少生物の保ゴ
 - ・ 島の人すら借りれない
 - ・ 積極的に役場
- #### ③
- 魅力
 - イハナシの魔女→トナキ（ゲーム）
 - ・ 島の事を知った

- ・昔ながらの島の街並み
- ・景色がキレイ、とてもステキ文化
- ・島の住人 フレンドリー
- ・一人旅-1 か月に1回

課題

- ・認知度が低い
- ・アピールがほしい
- ・空き家-リフォーム
- ・宮古 20年 定住
- ・リゾート化はダメ、19:00-11:00 (17:00)
宿・食 村営

④

- ・島をもう一度見つめ直す
- ・島の魅力をどう表現できるか
- ・働く意欲がある人に移住してほしい
- ・ルールづくり、「教科書」的なものを作る
- ・販売店の誘致（本島の業者）
- ・農家と連携した商品（特産品）づくりのしくみ作り
- ・空き家の活用、しくみ（住む人の性格）関係人口との調整

⑤

- ・若い時より年をとってからのほうが楽しさを感じる
- ・先人の残してくれたものを大事にしたい
- ・教育現場として◎
- ・アピールする事が重要
- ・県内でも渡名喜島を知らない
- ・何もないのが良い
- ・“人口”
- ・一人旅が多い
- ・年々力が無くなっていく
- ・10・15年前からやるべきだ
- ・島を想う人がどれだけいるか
- ・人が少ないからむずかしい
- ・小さい子をあずかる場所
- ・教員として恵まれていると思う

⑥

- ・子どもたちと観光客とのコミュニケーションをとれる場やプログラムがあれば安全。

例) お土産づくり

地域行事参加（水上運動会とか…）

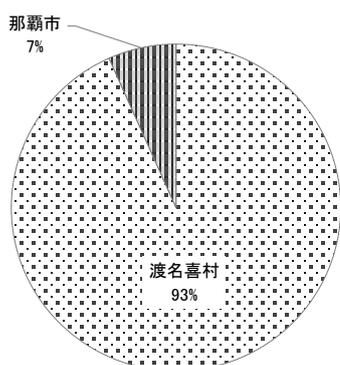
- ・職員の異動が多いので、継続した取り組みがむずかしい。引きつぎが大事。
- ・島外の人だから、言いづらいうりづらさがある
- ・幼稚園に入れば、時間がつくりやすい
安全にあそばせやすい
- ・小さい子を育てるのはむずかしい。
検診で那覇に行かないといけないとかは大変。
教育現場の継続するために、子をとぎらせたくない。
- ・子育て世代を呼ぶためには…
- ・働く場所はあるが、やりたい仕事があるかはなど、選択が少ない。
- ・子育てする場として良いのに、子が増えないのはなぜなのか…
良い環境であることをアピールすれば良い。
→でもどうやってアピールすればいいのか…。
- ・島外から来た先生や職員とは貴重な時間。えんりよせずに言ってほしい、やってほしい。
島の人々や子どもたちとのコミュニケーションをとってほしい。
- ・閉鎖的な場だからこそ、島外の人とのふれ合いは大事だと感じている。
- ・子どもが大きくなれば、育てやすい環境だと感じている。
- ・観光と学校のかかわり…？
→観光客が↑（増える）と子どもたちの安全が心配…
- ・観光客に気軽に話しかけて、ついていったり…あそんだり過去にあった。良い人たちだったらいけど
- ・少ない人数なので、外から来る人とのコミュニケーションが、子どもたちの成長、学びにはなると思うけど…安全が…

渡名喜観光島づくり地域円卓会議 参加者アンケート集計

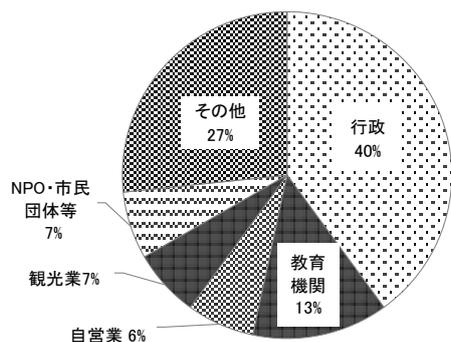
◆概要

- ・日時：2024年11月7日（木）17:30 - 20:30
- ・場所：渡名喜村多目的活動施設
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：22名（行政・教育機関・観光業）
(アンケート回収15名、回収率68%)

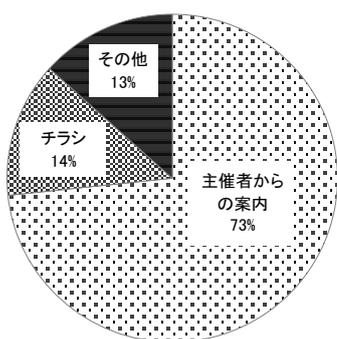
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
7名	8名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 各出席者のほんねの意見が聞けて参考になりました。渡名喜の良さ、足りない所がわかってよかったです。グループでの話し合いが充実していてよかったです。県内・県外にもっとアピールしてはどうか。
- ・ いろいろな意見が聞けて参考になった。
- ・ 円卓会議形式には初参加でしたが、非常に議論が活発になる様子がうかがえたから。また、観光だけでなく島づくりという視点を持つ事の重要性改めて実感した。
- ・ 多様な意見が聞けた。
- ・ このような会議は、ほぼ初めて開催されたので、参加者（村民）のナマの意見を直に聞くことができたため。
- ・ 島の皆さんと議論する中で、渡名喜を良くしたいという気概を感じました。
- ・ 島の現状について、多面的視点の意見が聞けてとてもよかったです。円卓会議をはじめて体験してとても良かった。

(4. 概ね満足)

- ・ 地域円卓会議、職種の違う方々の感想等を聞くことが出来て理解する事が出来た。
- ・ みんなの意見をアウトプットして可視化した。
- ・ 渡名喜村民の島に対する率直な意見が聞けて良かった。

- ・ 観光島づくり会議で話し合った中で、渡名喜島の事を真剣に考えて話しを聞いた事がよかった。
- ・ いろんな人の意見がきけたから。
- ・ 渡名喜の現状について真剣に話し合うことが出来た
- ・ 論点をうまく整理して進行し、課題等を表に出すことが出来た
- ・ 渡名喜島の現状について確認する事ができた。今後の方向性（渡名喜の）を参加者全員で考える事ができた。
- ・ 具体的に観光を含めたむらづくりへのきっかけになったと感じている。
今後も続けてほしい。色んな業種の方々にあつまってほしい。
観光から色んなところにつながっていったのが良かった。
- ・ 村民の方向性は単に人を増やすではなく、今の渡名喜を継続していきたいというのが印象に残った。
- ・ 宿泊所取れない、食事出来る場所がない、第五総合計画されている事知らなかったの
今後関心持って出来るかぎり協力して行きたい。
- ・ 経営者の視点も必要だということ。
- ・ 島民が本音で話し合える場の設定。
- ・ 家主さんの後ろに役場がついているのはよい。
空家を資源とする。
- ・ 中間管理住宅（でも間に役場だけが入るのはマンパワー不足でむずかしいと思う）
宮島の例
村民がはらをわること。
一人でのんびりできる人がきてほしい

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 無理せずに渡名喜のそのままの風土を活かした島づくりをする事が大事なんだと思わされた。
- ・ 学校職員や郵便局職員等の一般的には観光を直接的には関わらないイメージがあるが、今回の円卓会議を通して、様々な視点での意見を聞いた事が印象的だった。また、空き家と言った表現をするのではなく”古民家”貴重な資源としてポジティブに捉えるといった新垣顧問の意見が印象的だった。
- ・ 一人で過ごせる所
- ・ 論点提供者の日向寺さんをはじめ、着席者の皆さんのきたんのない意見等を伺えたこと。
- ・ 宿、空き家の使い方
- ・ 渡名喜島のPRに力を入れること。
- ・ 何を守り何を近代化するか、伝建とのからみもあってなかなか難しいと感じている。
みんなでどういう島にしたいか。
IU ターンできる取組、実行可能な計画

(写真) 会場の様子



- 共通している
- 観光の目的(手段)
- 費用.産米.
- やりやすい.
- 交流人口を増やす
- 伝束を活かす.
- ITを活用して.活用する
- 欠点
- 経営的感かつかない
- 一人一人の意識が大切
- 働き手
- きれいな町.元気な町に観光客は来たい.
- 島で頑張らして取り戻す
- ボランティアでやっていることは生業として出来ると思う.
- 後援の支援は必要.
- 外部の資本もいれたい
- 文化の高い村づくりをする.
- (伝束)

- 不可何億の低い観光にする
- ターゲット層を考えると.
- 他の島と強ひけ.意味やまい.
- 出来ることからやってみる.
- 村の所有権を出して.
- 取組を仕組つくりをする
- ハード面より.島にお金がおちる.
- お金を作る方法も考えるべき.
- 自治体をおいていい
- 漁業.産米.観光を活かす.
- 島で発注出来るベスト.
- 伝束
- いい空りも島の人でせめてお金をおちる.
- 島にお金をおとす島づくり.
- を考へる
- 資金の持っている人の受け入れも考へる
- 受け入れも構築する
- 島民:し.考へる

人口減少

~~残り~~

あと5年の人口を

推計すると40%は少
なくなる

観光をいかに
おもしろい。

1次産業の衰退

退協力は金がかかる

農業、スイカ、落花生

おとり、物 記憶に

味が大い なる。

外部の力を得て団地の

復活(ボランテア)

ボラン

子ども

7-11がー春はじめに

みえる山を活用

観光の復活 花

山下あがれ

観光

山
の
活
用

これから島にお金を
かけたい。

新世代で観光客を
呼びこむ

人手不足 I.Uの不足

行政、住民が一体
になる

観光客

写真展、人

知小生物の保護

島の人を呼びこむ

積極的F活用

魅力・島の事を知らぬ
 ｲﾝﾌﾗ・昔ながらの島の街並み
 敵・景観がキレイ、とてもステキ文化
 トキ・島の住人フレンドリー
 (ギム)・一人旅・1ヶ月/日

課題・認知度が低い
 ・アピルが低い
 (定家) - リフォーム
 ・立ち・20年 定住
 ・リゾート化はダメ。(19:00 = 11:00)
 (17:00)

・島のついで見込あり
 ・..の魅力どう表現できるか
 ・働く意欲のある人に移住
 (いい的なのを)
 ・ル・ブル(教科書)
 ・販売店(本島の業者)
 ・農家と連携して商品(野菜類)作り
 (おみやげ)
 定家の活用・しみ
 (住む人の性格)
 関係人との調整

若・時列年を2.70-8
 ・心が楽に感じる
 ・先人の残してくれたものに
 大いにたい
 ・教育現場にて◎
 ・アピルする事が重要
 ・県内でも後者若島に知ってる
 ・何れよ..のが良..

・人口
 ・一人旅が多..
 ・年々力が無くなる..
 ・10-15年前がよかった
 ・島を想う人がどれだけいるか
 ・トが少な..から..
 小さい子をおくる場所
 親しい意味で..

- * 子どもたちと観光客とのコミュニケーションをとる場をプログラムがあげば、安全圏。
- 例) お土産づくり
地域行事の参加 (水上運動会、か...)
- * 職員の負担が大きいので、継続して取り組むのが難しい。引継ぎが大事。
- * 島外の人から、言っただけでやりづらさがある。
- * 幼稚園に入れば、時間をとってやり、安全にあげばいい。
- * 小さい子を育てるのは難しい。検診で別にやることがあるから大変。
- * 教育現場の継続するため、子どもを育てたい。
- * 子育て世代を呼ぶ人は...

- * 働く場所はあるが、やりたいう仕事か、あつた仕事か、環境がよい。
- * 子育てする場として良いか、子どもが増えてもいい環境か...
良い環境であることはアポイントメントが...
→でも、どうやらアポイントメントは...の...。
- * 島外から来た先生や職員の負担の軽減。無理をせずに、言ってもらい、やってほしい。
- 島外で子どもたちとのコミュニケーションをとってほしい。
- * 閉鎖的な場所から、島外の人との子外合...は大変だと感じている。
- * 子どもが大きい場合は、育てやすい環境を感...。

* 観光と学校 のつながり...!?

↳ 観光客がと子どもたちの安全が心配...

- * 観光客に気軽に話しかけて、ついでに、たり...
おさんだりだ過去にあつた。おんたたちだ、たさ...。
- * 少人数なので、外から来た人とのコミュニケーションが、子どもたちの成長・学びには好むと思うけど...安全圏が...